

2020年東京パラリンピック日本代表選考手順及び方針

施行日：平成31年 2月15日

作成者 江黒 直樹

2020年男子代表編成方針

1. 2020年東京パラリンピック競技大会でメダル獲得並びに十分な活躍が期待できる選手を選出し構成する。
2. 礼儀と規律を遵守し、ゴールボール日本代表としてふさわしく、かつ参加各国と競技を通じて友好と親睦に寄与できる、選手・役員をもって編成する。
3. 派遣人数として、選手6名、ベンチスタッフ3名、若干名チームサポートに配置する。
4. 2020年東京パラリンピック男子日本代表選考手順を下記に示す。
2019年を通じて、チームを作りながら、メンバーを選んでいく。
選考対象場面として、下記の大会と合宿を設定する。
 - (1) 5月 中国遠征
 - (2) 6月 スウェーデン遠征
 - (3) 9月 ドイツ遠征
 - (4) 11月 中国遠征
 - (5) 12月 アジアパシフィック大会
 - (6) 2020年3月 ブラジル合同キャンプ
 - (7) 招集された強化合宿

選考の流れ

※JGBA日本代表選考規定に定める、主要大会代表派遣選手は、強化指定選手A・Bランクから選考する。

派遣事業の中で、選考会として設定している大会（5月中国遠征、6月スウェーデン遠征、9月ドイツ遠征、11月中国遠征、12月アジアパシフィック大会、2020年3月ブラジル合同キャンプ）で、男子強化選考シート（国際大会ver.）を用いて選手の評価を行う。

2019年6月強化合宿に11名の強化指定選手を招集し、中国遠征・スウェーデン遠征の各選手の評価・強化合宿の評価を踏まえて、9月のドイツ遠征メンバーを選考する。

アジアパシフィック大会の選考は、中国遠征及びマルモ遠征にて一定の成績を残した選手には内定

を与えることもあり、最終決定は、ドイツ遠征終了後、東京パラリンピック代表選考手順（1～6参照）から総合評価（国際大会評価シート）を行い、男子強化スタッフ選考会議及び理事会の承認を経て、10月強化合宿で、アジアパシフィック大会代表メンバーを発表する。

尚、アジアパシフィック大会で、国際大会選考シートを用いて選手の評価を行う。その結果を参考資料とし3名から4名を選出し、東京パラリンピック内定者とする。

残りメンバーについては、2020年3月の強化合宿で男子強化選考シート(国内)を用いて選手の評価を行う。また、これまでの国内合宿、国際大会のデータや結果も参考資料とし、それを用いて選手の評価を行い選出し、東京パラリンピック内定者とする。※2020年3月9日変更。

尚、2020年東京パラリンピック代表選手に内定するためには、2019年内に実施される主要国際大会でクラス分けを受診し、有効期間2021年以上のステータスを有しなければならない。但し、2021年以上のステータス、もしくは、Confirmを有する当該選手は受診不要である。

尚、2019年6月強化合宿から毎回の合宿で、ベスト6を選出し、評価の参考指数とするとともに、選手間の競争意識を高めることを目的として、7月強化合宿以降は11名の強化指定選手のうち、パフォーマンスの高い9名を召集する。なお、召集する9名については、毎合宿でのパフォーマンスを評価し、必要に応じて入れ替えを検討する。

内定者取り消しについて

1. 強化指定選手誓約書に定める事項に違反該当するもの
2. 著しいスポーツ障害により、本来有するパフォーマンスが今後発揮できないと判断し、かつ当協会メディカルドクターが医学的所見により、内定選手が提出する診断書をもって検証をおこない、理事会の決議により内定取り消しとする。

附則

1. 平成31年 2月15日（選考の流れ及び評価項目追加・変更）
2. 令和元年 5月 1日（選考の流れ及び評価項目追加・変更）
3. 令和元年 8月18日（選考対象場面の変更、選考の流れ及び評価項目追加・変更）
4. 令和元年 9月21日（選考の流れ及び評価項目追加・変更）
5. 令和2年 3月 9日（選考の流れ及び評価項目追加・変更）